

## 採材検討会への初参加

令和5年9月25日に、大槌・気仙川流域及び岩手県内の林業関係者を対象に、ニーズに対応した原木の供給を図ることを目的とした採材検討会を開催しました。釜石市橋野町に位置する橋野第一国有林383林班を会場とし、当署職員含め総勢62名にご参加いただきました。

本検討会では、広葉樹の採材に焦点をあて、クリ・サクラ・ミズメを用意しました。広葉樹は一般的に、枝分かれの開始より下方は一般材、上方の枝部分は低質材として利用されています。節や曲がり、分岐のある材を2.2m採材を基本としながらも、需要者、供給者ともに満足する採材方法を、3班に分かれて検討していただきました。節の程度により、一般材か低質材かに意見が分かれたものもありましたが、各班で概ね同じ採材方法となりました。



左からクリ、サクラ、ミズメ

採材検討が終わると、市場を運営している岩手県森林組合連合会の方から、採材の方法は概ね問題ない旨の講評をいただきました。また、針葉樹・広葉樹それぞれについて木材市況、販売状況などについて情報提供していただきました。木材市況は向上が見込めず、販売も滞っている状況が続いています。一方で、針葉樹は気温の低下により虫害も収まることで、販売に動きが出ることが期待され、広葉樹は前月より市況が向上している樹種があるとのことでした。



熱心に意見を交わす参加者達

私は、新規採用者ですが木材の生産と販売を担当しており、採材検討会の内容は業務に密接にかかわるものでした。伐倒木の用途がどのように決まるのかを間近で見ることができ、大変勉強になりました。本検討会にご参加いただいた皆様にとっても有意義な時間となり、採材についての再認識や理解を深める場となっていましたら幸いです。

三陸中部森林管理署 資源活用担当 檜山 紗希